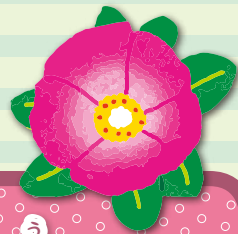


ゆたかな郷土



# のびゆく産業



やまだまち はたら ひと  
山田町で働く人たちに  
ついて見ていこう。



海太くん

豊さん



きょういく いいんかい  
山田町教育委員会



# モノを作る

世界中で使われているんだね。



創業者で会長の田鎖蔵さん

## 「幸せになろう《幸せ=成長した自分に会えること》」がテーマ 株式会社エフビー



会社全景

### ●世界をつなぐコネクター

豊間根地区の株式会社エフビーは、マイクロコネクターを作る会社です。

マイクロコネクターは、電子機器どうしを結ぶケーブルの接続部分で、スマホやデジカメ、自動車、医療機器などさまざまなところに使われています。世界中で使われているマイクロコネクターの約1割が日本製、そのうち出荷額の約5パーセントは岩手県が占め、同社はその一翼を担っています。



作業現場のようす。高品質・高性能の製品を作るため、日々努力が欠かせません。

### ●動物写真家から電子部品製造へ

「若いころはプロの動物写真家を自指していた」という田鎖さん。コネクターの仕事を始めきっかけは、叔父に勧められたこと。さらに「まわりからコネクターの仕事はもっと困難な仕事だと言われ、逆にやってやろうと思った」と田鎖さんは言います。1年間の修行の後、電子部品製造の「田鎖製作所」を設立。これが「株式会社エフビー」のルーツです。数人で始めた会社は、社員数が約270名、売り上げが年間40億円を超える企業になりました。

### ●幸せとは成長した自分に会えること

成長を支えているのは、社員を大切に、技術向上をどこまでも追究する姿勢です。同社は「幸せになろう《幸せ=成長した自分に会えること》」を方針にしています。希望する社員に技能検定や資格取得をすすめていて、県内にいる特級プラスチック成形技能士10名のうち4名が同社の社員となっています。

### 先輩から一言! 糠盛悠乃さん

高校3年生のときに会社見学をして、ここに入りたいと思いました。仕事をしながら勉強して技能検定を受け、3級、2級と進み、今は1級を持っています。技術の進歩に応じていろいろなものを作れ、やりがいを感じています。みなさんには、いろいろなことにチャレンジし、仕事についても人間としても成長してほしいと思います。





どほくしぎょう  
土木事業までやってるのか。  
すごいな。



# 新しい発想で

## それぞれの強みを組み合わせて全体を強くする 株式会社丸一水産

大沢地区にあった株式会社丸一水産は、山田町や宮古市で水揚げされたイカを刺身に加工していましたが、東日本大震災の津波により社屋や工場を流され、船越地区に会社を移しました。



取締役の鈴木淳一さん

### ●イカの加工で復興

復興の原動力も、やはりイカでした。近海産の水産物の不漁、そして福島第一原子力発電所の事故の影響で近海産でない海産物が求められていたことなどから、南米産の大きなイカ「アメリカオオアカイカ」の加工に挑戦。水産物加工のノウハウを活かして、オオアカイカの酸味や雑味をぬいて肉質を改良することに成功しました。現在、同社のイカは町内の飲食店から県外のスーパーマーケット、さらに大手コンビニエンスストアにも出荷されています。



加工工程のようす。工場では外国人の研修生も働いています。

### ●まったく新しい事業も

取締役の鈴木淳一さんは元商社マン。経験を活かして土木・建築資材の販売も始め、復興工事に協力しています。例えば、西川の根固めブロックや長崎街道のガードレール基礎ブロックは同社の販売したものです。

水産加工はお客さんを増やせばそれだけ売り上げが増えますが、不漁になれば商売になりません。一方で土木・建築資材は安定して手に入り、売り上げも大きいのですが、工事が終わればお客さんはいなくなります。それぞれの強みを組み合わせ、会社全体を強くしようと考えています。

### ●3本目の柱を建てる

3本目の柱として新しい事業も計画しています。鈴木さんが注目したのは伝統食の「ひゅうず」。材料は水産物よりも安定して手に入り、食品加工のノウハウも活かせます。

「自然に左右されない自社ブランドの製品がほしかった」と鈴木さん。丸一水産の「ひゅうず」が、山田町のみやげものになる日も近いかもしれません。



# ひととの縁

震災のときはたくさんの人に助けもらったわ。



夏織さん

## 力を与えてくれたのはみなさんの優しさ 有限会社まるき水産

山田漁港、北浜地区の一角にある有限会社まるき水産は、海産物の卸、水産加工品の製造・販売を行っています。東日本大震災の津波にも耐え、今も震災前と同じ場所で営業を続けています。



震災から復活した調理室

なく親戚や知人に声をかけてくれ、販路が少しずつ広がっていったのです。佐々木さんは「力を与えてくれたのはみなさんの優しさ。優しくなれる人間の力を知らされ、そして勇気をももらった」と言います。



代表取締役の  
佐々木千鶴子さん

### ●優しくなれる人間の力

佐々木千鶴子さんは、震災について「津波が2階まで押し寄せ、事務所も調理室も壊され、あらがいがよのない自然の大きな力を感じた」と語ります。それでも震災の年の12月には調理室を整備し、翌年2月の商談会に出展しました。

もちろん、すぐに商品が売れるわけではありません。売れたきっかけは震災でつながった縁でした。山田町の惨状を知り、援助の意味で注文してくれた人たちに商品を送ると「おいしい、新鮮!」ととても喜んでくれました。その人たちが、また注文してくれるだけで

### ●サイトやSNSを使って発信

今、佐々木さんが力を入れているのは、インターネットを使っての情報発信です。乱獲や気候の問題で原材料費が値上がりしているので、利益を確保するために直接販売を増やしたいのです。サイトやSNSには順調に問い合わせが来ています。

その反響から、改めて山田町の産物のよさを感じた佐々木さんは「豊かな海や山、特色ある伝統芸能といった町のいいところを伝えてほしい。その上で若い力を結集し、新たな知識、ノウハウを身に付けて、ハイレベルな漁業を作りあげてもらいたい」と語ります。

同社のサイト。インターネット販売に力を入れている。





# あきらめない

あきらめないことは、  
たいせつ  
大切。



タブ

## どん底での発想の転換がヒット商品を生んだ 株式会社山田の牡蠣くん

2006(平成18)年の冬、全国的にノロウイルスによる感染症が注目され、人びとはカキにも疑いの目を向けました。実際には汚染などされていませんでしたが、カキは殻をむき、加熱してからでないと思われませんでした。

### ●どん底での発想の転換

株式会社山田の牡蠣くんの創業者で代表取締役の佐々木俊之さんは「自分は不器用だから、ほかの人が10個殻をむくときに1個がやっとなかった」と振り返ります。それではどうにも商売になりません。

どん底で思いついたのが「10分の1しか売れないのだったら、10倍価値のあるものを作ればいい」ということでした。この発想が試行錯誤を経て「山田の牡蠣くん」を生みます。2009(平成21)年の若手県水産加工品コンクールで「山田の牡蠣くん」は県知事賞を受賞、翌年9月には大沢地区に工場を建て、生産を拡大していきました。

### ●工場が東日本大震災で全壊

ところが、操業半年の工場が津波で流されてしまいます。再びどん底に立った佐々木さんは、それでも「山田の牡蠣くん」を望む声にはげまされ、事業再開を決意します。

あちこちに声をかけ、加工場所は花巻市で借りることができました。原材料については、冷凍のカキは入手できましたが、思ったような味が出せません。そこではるばる北海道の厚岸町まで行きましたが、カキを売ってくれる所は見つかりませんでした。

その帰り道です。とぼとぼ歩いていると、声をかけられました。たまたまその朝、道をたずねた人です。「まさかその人がカキを売ってくれる人を紹介してくれるとは」と佐々木さんは当時の驚きを語ります。こうして事業は再開されました。

「絶対あきらめるな。どんな試練があっても、それを乗り越えようと努力すれば、必ず応援してくれる人が現れるよ!」と佐々木さんは言います。



風評被害による逆境からヒット商品が生まれました。



「山田の牡蠣くん」の製造工程のようす



佐々木さんは「試練に立ち向かってほしい」と言います。

# もてなす/食を支える

人は人に会いに来る

## 光山温泉 旅館岳泉荘



調理場で腕をふるう  
古館さん

専務の古館興司さんは、18歳のときから東京の大手ホテルで和食の修業をし、29歳のときに旅館をつぎました。そのとき「東京と山田では食材も人の舌も違う」と感じ、試行錯誤をくり返して山田ならではの味を実現したといいます。古館さんは「新鮮でおいしい食材が豊富にあるのは幸せなことなのに、山田の人がそれに気づいていない。みんながもっと料理に興味をもてば、その幸せにも、あるいは新しい『おいしい』にも気づけるのに」と言います。

「お客さんは一人ひとり違うので、もてなしも違ってくる」と古館さん。例えば復興工事のため長期で泊まっている人と、観光で2・3日泊まる人では「おいしい」と感じるものが違います。古館さんは長期のお客さんには家庭料理風なものをつけるなど工夫しています。

「人は人に会いに来る。次に山田に来たときにまた会いに来てもらえるかどうか」と言う古館さんが一番うれしいのは、温泉でお客さんとうちとけて話すことです。



男湯・女湯にはそれぞれ温度の違う2種類の風呂があります。

いっさんのおかげで、おいしいものが食べられるんだね。



まつりちゃん

地域に密着したスーパー

## びはん株式会社

びはんストアール店の従業員さんにお話をうかがいました。

●**青果部門** 子どもが小さくて長い時間家を空けられないことと、ふるさと山田が好きということから転職のときここを選びました。慣れない仕事ができるようになってきたときが一番うれしいです。



●**精肉部門** 駅前のガソリンスタンド勤務でしたが、震災でこの部門にきました。全く畑違いの仕事ですが、家族がいますから。最も気をつけているのは「品質」そして「作業の安全」です。



●**惣菜部門** お客さんからのリアクションが多いのがこの部門のいいところです。「おいしかった」と言ってもらえればうれしいですし、そうでなかったら「じゃあ次はこうやって作ろう」と知恵がわくからです。



●**鮮魚部門** 山田産の鮮魚は魚市場で直接仕入れています。三陸でもこの町ほど、海産物が豊富な所はないでしょう。みなさんには大人になってもこの海のめぐみを忘れず、大切にしてほしいと思います。





うみ うえ  
海の上は  
きもちいいぞ。



# 体験と感動

やま だ  
山田の海でしか体験できないことを

## GEOTRAIL (ジオトレイル)

山田町では、2016(平成28)年に公表した『山田町観光復興ビジョン 山田プライド』において、取り組みの筆頭に「エコツーリズム・体験観光の推進」を挙げています。これを実行しているのが「GEOTRAIL(ジオトレイル)」です。



GEOTRAIL代表の  
川村さん

### ●山田の海の魅力を伝えたい

GEOTRAILを立ち上げたのは、日本セーフティカヌーイング協会公認ベーシックインストラクターである川村将崇さん。川村さんは小学校4年生のとき初めてカヤックに乗り、山田湾で釣りをしたりオランダ島まで渡ったりしました。同じ体験を町に来た人びとにしてみらうことで、カヤックや山田の海の魅力を感じてほしいと考えています。



カヤックに乗ると視線が海面に近く、陸上とは風景が違って見えます。

### ●山田にはすばらしい海がある

GEOTRAILで体験できるシーカヤッククルーズには、初めてカヤックに乗る人向けの「カヤック体験プラン」、カヤックでしか行けない浜に上陸できる「ショートツーリングプラン」、カヤックでオランダ島に渡って周辺を散策する「オランダ島ツーリングコース」の3つのプランがあります。山田湾は波がおだやかなため、初めての人でも安心してカヤックを楽しむめます。

「山田町には遊ぶ場所や観光地がなく、通りすぎてしまう人が多い。しかし、山田にはすばらしい海がある。シーカヤックで山田の海でしかできない体験をしてもらい、また来る人が増えてくれれば」と川村さんは言います。



大きな湖のような山田湾は、シーカヤックに最適な環境になっています。



オランダ島への上陸のようす



たくさんの人に  
知ってほしいね。

# 知ってもらおう



いっしょにやろう。待っているよ!

## 一般社団法人山田町観光協会

海、山、人、たくさんの魅力があふれる山田町。

その山田町を多方面でPRしているのが一般社団法人山田町観光協会です。



山田町の代表的な特産物であるカキのおいしさを楽しんでもらうための「かき小屋」は、震災により被災しましたが、場所を変え、「復興かき小屋」としてオープンしました。



その業務は、

- 町外からの観光客への観光案内
- 情報誌「やまだ」をはじめとするさまざまな印刷物の発行
- 特産品のPR、販売
- 「かき小屋」の運営
- 「鯨と海の科学館」の管理など、多岐にわたります。

これらのたくさんの仕事を、限られた人数で動かしているスタッフのリーダーが、観光協会事務局長の沼崎真也さんです。

若いころ、東京の飲食店チェーンで働いていた沼崎さんは、「30歳になったら山田町に戻ろう」と決めていました。

しかし、仕事がいそがしく、結局山田町に戻れたのは35歳のときでした。そして、その前年にオープンしていた「かき小屋」に就職したことがきっかけで観光協会でも働くことになり、事務局長を任せられました。



2017(平成29)年7月に再開館した「鯨と海の科学館」

交通の便がいいとは言えない山田町ですが、世界でもまれなリアス式海岸を持ち、海の資源、山の資源、人の資源、そしてそこで作られる優れた産物があります。沼崎さんの頭は「それらをどうやって町外の人たちに知ってもらおうか」でいつもいっぱいです。

町にとって、観光はますます重要な産業になっていきます。

沼崎さんは、町の若い人、特に子どもたちに言います。

「町の将来を決めるのは君たちだよ! 一緒にやろう。待っているよ!」



事務局長の沼崎さん